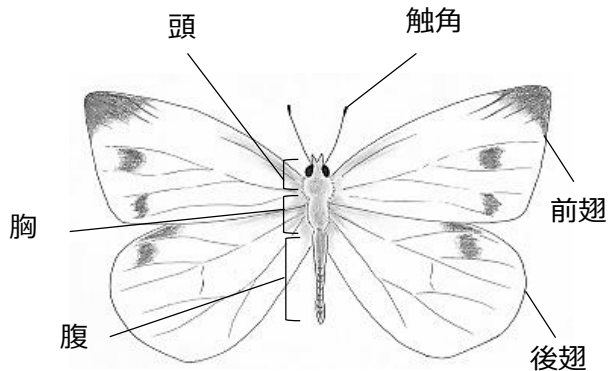




とねり自然図鑑

動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ～」という情報もお楽しみに。

【撮影した会員さんのつぶやき】 ひらひらと小さなチョウが花に止まりました。白い翅に黒い点模様、よく見かけるモンシロチョウ。青い花に小さな白が入ると映えて見えたので、シャッターを切りました。



名称：モンシロチョウ（紋白蝶）

学名：*Pieris rapae*

体長：20-30mm

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄

時期：3-11月

主食：花蜜

天敵：鳥類、カマキリ、トンボ

【モンシロチョウは未来の医療に役立つかもしれない？】

○白く小さくひらひら舞うモンシロチョウ、とてもポピュラーなチョウで、一度は見たことのある方も多いと思います。このどこにもいるチョウですが、もしかすると新しいガン治療の開発に繋がるかもしれない可能性を秘めているのです。

モンシロチョウも他のチョウと同じく幼虫と成虫で外見も食べるものも大きく異なります。幼虫のときはキャベツの葉などを食べ、成虫になると花の蜜を食べます。なぜこんなにも食べるものが変わるのかというと、幼虫から成虫になる時、つまりサナギの時に必要な栄養をとっているからです。では、サナギの中では何が行われているのでしょうか。それは、成虫には必要ない器官の細胞を排除し、必要な器官を新しくつくっているのです。この時、必要な細胞だけを残し、不要な細胞を壊すためピエリシンという物質が分泌されていることがわかったのです。では、この物質をどう役立てるのかというと、ピエリシンを含むサナ

ギの体液をガン細胞にかけると、ガン細胞は死滅しました。このピエリシンを使い、狙ったガン細胞だけを破壊することができるようになれば、正常な細胞を攻撃せずに副作用のない新しい抗ガン剤として将来役立つことになるかもしれません。

しかし、ピエリシン自体はとても毒性の強いものでそのまま投与するのはあまりにも危険です。なので、狙った細胞だけを攻撃するように改良する研究が進められています。

現在の抗がん剤は正常な細胞まで攻撃してしまうので、副作用があり、患者に大きな負担がかかります。ピエリシンの研究が進み副作用のない新しいガン治療が早くできれば良いですね。

特別なチョウでもない、モンシロチョウですが、こんな力が秘められているのですね。

『舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓』

赤池学『昆虫力』 小学館

ケン・プレストン・マフハム『世界チョウ図鑑500種』ネコパブリッシング

鈴木欣司・鈴木悦子『昆虫好きの生態観察図鑑 I チョウ・ガ』 緑書房

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくらう！